

免疫成分で前立腺肥大

世界初、発症の仕組み解明

大浦 島医 福研

福島医大の研究グループはヒトなどの生物に侵入した病原微生物を排除する免疫成分「補体」が前立腺肥大症の発症に働

いた。同大によると、世界で初めての解明とな

る。研究グループは福島医大医学部泌尿器科学講座の秦淳也学内講師(三三)、小島祥敬教授(五〇)、免疫学講座の関根英治教授(五二)、町田豪講師(三八)ら。補体は一般的に生体

内に侵入した病原微生物を排除する免疫成分として働く。ただ、最近では炎症を引き起こし、さまざまな疾患に関わること知られている。

研究グループはこの作用が前立腺肥大症にも関係する可能性に着目。ヒトの前立腺肥大症組織などを用いて研究を進めた。その結果、補体が活性化して働く三つの仕組みのうち、特に一つの仕組みで炎症が増幅する結果が出た。

研究結果は新薬開発などに発展する可能性がある。研究論文は昨年十二月の英国科学誌「サイエンティフィック・レポート」に掲載された。前立腺肥大症は中高年男性の約半分が発症する疾患。患者は頻尿や排尿困難などの症状に悩まされる。原因として男性ホルモンの関与がいわれているが、詳しい仕組みは分かっていなかった。